

平成28年度 学校評価

宮城県田尻さくら高等学校

生徒提出分

～回収率・肯定的評価がともにアップ!～

回収率が、昨年度の79%から、今年度は82.4%へと伸びた。年次で見ると、1年次83%、2年次82%、3年次83%となっており、長欠者を除くと、ほとんどの生徒から回収されたものと考えられ、その評価は尊重すべき貴重なデータであると言える。

(1) 肯定的評価(とても当てはまる・だいたい当てはまると回答)が高いもの、伸びたもの

①少人数授業は、授業内容を理解するのに役立っている。	90%→95%
②日常の清掃活動にまじめに取り組んでいる。	83%→92%
③災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	78%→88%
④挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。	85%→91%
⑤進路志望別見学会や進路講話など、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	92%→91%

※全年次による比較

- ①少人数授業による授業内容の理解が95%と、評価の割合が大変高くなっている。今後も一人ひとりの学びの状況をきめ細かく把握し、手厚い授業の実践が必要であると思われる。保護者もそのことを望んでいる。(保護者回答96%)
- ②清掃活動への取り組みや挨拶・マナーへの指導に対する評価が高くなっていることから、基本的生活習慣に関する指導が生徒へ浸透してきていると考えられる。今後も生活指導をしっかり行っていきたい。
- ③年度当初に行った災害・非常時の安否確認メールの練習などが功を奏し、評価の割合が高くなっている。いつ災害が起こるか分からないことから、教職員が防災に関する意識を高く持つことが大事であり、常時防災マニュアルを確認する必要がある。
- ④挨拶マナーについての指導が生徒の心に響き、自治会のあいさつ運動もとてもよい活動ではなかったか。継続的に粘り強くコミュニケーションをとりながら社会に通用する人材を育成したい。保護者もこのような指導を望んでいる。(保護者回答85%)
- ⑤進路指導について、常に出口を意識しながら、さらに、社会で活躍できる人材の育成に教職員は全ての教育活動で指導していくべきであると感じた。保護者からも高評価であった。(保護者回答91%)

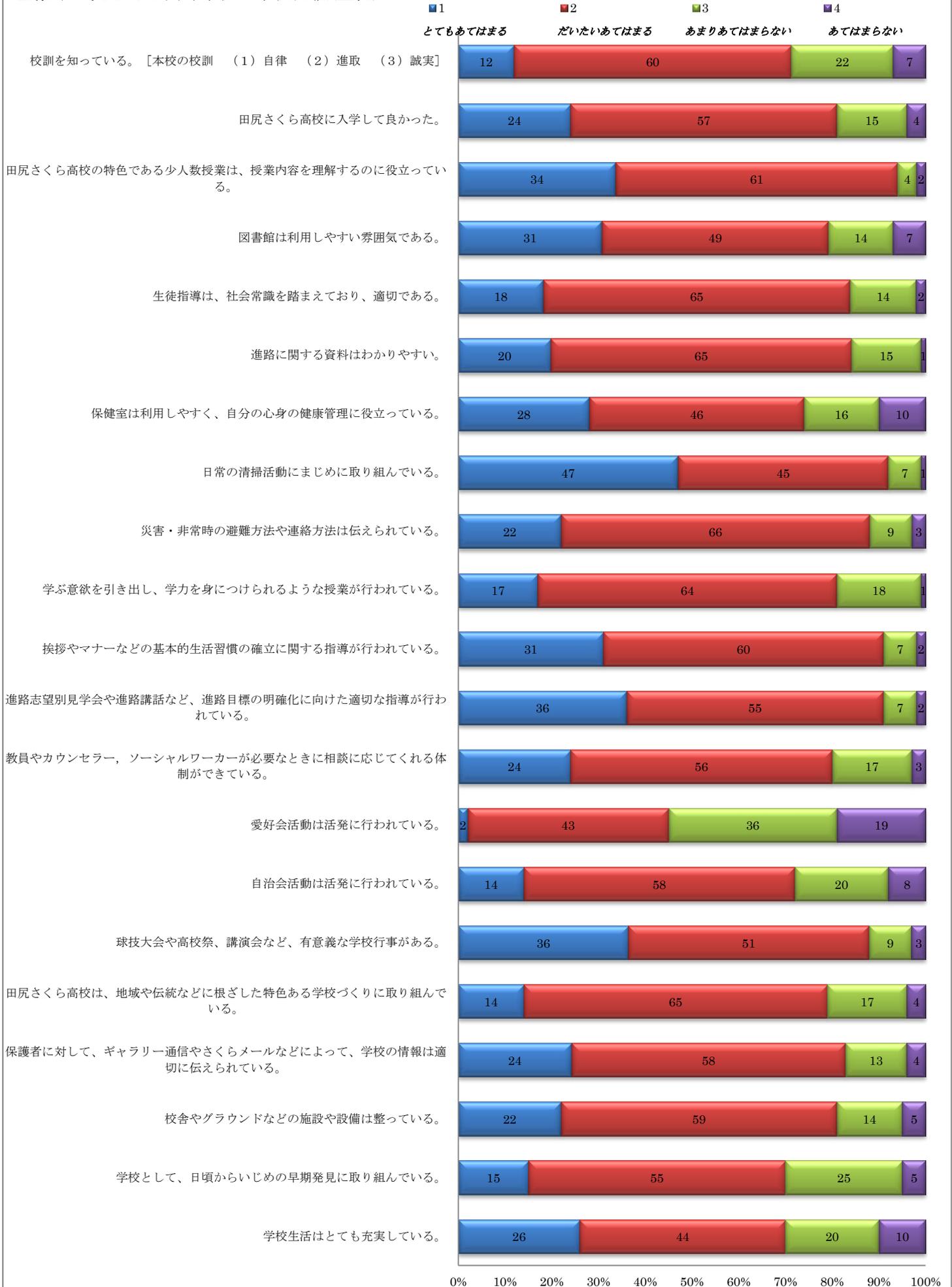
(2) 否定的評価(あまり当てはまらない・当てはまらないと回答)が高いもの・伸びたもの

愛好会活動は活発に行われている。	57%→55%
------------------	---------

※全年次による比較

- ・この項目のみ、否定的評価の方が肯定的評価の割合を上回っている。生徒に問題意識を持たせることも必要だが、この問題に対しオリエンテーション時等、生徒に考え働きかけることも必要になってきていると考える。

宮城県田尻さくら高等学校 学校評価(生徒)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%